

Formula NIPPON NEWS 2009.04.05
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第1戦・決勝 [富士スピードウェイ]

トレルイエ (LAWSON IMPUL) が2年ぶりの優勝

伊沢、平手の2年生コンビが2位、3位を獲得

4月5日、2009全日本選手権フォーミュラ・ニッポン開幕戦の決勝レースが富士スピードウェイ（静岡県）で行われた。2006年のチャンピオン、No.2 ブノワ・トレルイエ (LAWSON IMPUL) が2年ぶりの優勝を飾った。参戦2年目のNo.41 伊沢拓也 (DOCOMO DANDELION) が2位、No.20 平手晃平 (ahead IMPUL) が3位に入賞した。

フォーメーションラップがスタートしたのは、午後2時30分。気温11℃/路面温度19℃というコンディションの中、13台のマシンがタイヤを温めながら1周の隊列走行を行なう。そして、全車が正式グリッドに付くと、いよいよスタートが切られた。このスタートでホールショットを決めたのは、予選2番手の伊沢。予選3番手のトレルイエがそれに続く。一方、ポールポジションの平手は加速に失敗。後方集団に飲み込まれた。予選7番手のNo.8 石浦宏明 (Team LeMans) は完全にエンジンスター。また、トレルイエのすぐ後方では、アクシデントが発生。予選5番手からスタートしたNo.31 ロイック・デュバル (NAKAJIMA RACING) がブレーキをロックさせ、白煙を上げながら、前方でコーナリングに入っていたチームメイトのNo.32 小暮卓史 (NAKAJIMA RACING) に接触。小暮はスピンしながら1コーナーでコースアウトし、大きく遅れることになる。

1周目を終え、伊沢、トレルイエ、デュバル、No.1 松田次生 (LAWSON IMPUL)、No.36 アンドレ・ロッター (PETRONAS TOM'S)、平手の順。ここからはトップの伊沢が2番手との差を広げる。一方、2番手争いは白熱。デュバルがたびたびオーバーテイクボタンを使用しながら、トレルイエの背後に迫る。オーバーテイクボタンを押したことを示すランプが輝くたび、観客も沸く。だが、トレルイエは動じることなく、ポジションをキープ。その後方では、松田とロッターの4番手争いも激化。15周を終えた時点でその差はコンマ7秒。16周を終えたところではテール・トゥ・ノーズに。そして、ストレートの途中からロッターがオーバーテイクボタンをスイッチオン。1コーナーのブレーキングで松田のインに飛び込む。しかし、松田もタイトなラインでコーナーに入り、ロッターは縁石のイン側まで追い詰められ、立ち上がりのラインがはらみ気味になり、松田と接触。松田のマシンは半分ほど宙に浮いた後、スピンして1コーナーのイン側にストップ。このまま、コースへの復帰はならなかった。一方、4番手に上がったロッターは、ここから猛プッシュ。ベストラップを叩き出しながら、3番手のデュバルとの間にあった4秒あまりの差をみるみる詰め、22周を終えた時点でコンマ8秒差に迫った。ところが、ロッターは接触行為による15秒ペナルティーとなり、上位から脱落した。

この頃から、義務付けられているタイヤ交換と給油のため、ピットに入るマシンが現れる。トップ集団では、デュバルが24周を終えたところでピットイン。一旦、後方に沈んだものの6番手までリカバーした小暮も、27周を終えてピットに。だが、マシンを止めた位置が悪く、給油装置がなかなか刺さらず、大きくタイムロス。再び後退してしまった。さらに32周を終えて、2番手のトレルイエがピットイン。それを見て、トップの伊沢も翌周ピットインする。だが、ピットアウトしたところで伊沢はブレーキをロックさせ、1コーナーでオーバーラン。それを挽回もあり、1周して戻ってきたストレートではオーバーテイクボタンを使って、後方に迫ったトレルイエとの差をキープしようとする。だが、35周目の1コーナーへのブレーキングでトレルイエが伊沢のインをさし、事実上のトップに浮上した。その後、暫定トップを走っていた平手が、36周を終えたところでピットイン。伊沢の前でコースに戻る。その週のダンロップコーナーで伊沢が平手を攻略。2番手に浮上。その後、終盤まで伊沢、平手、デュバルの2番手争いは白熱したが、結局そのままゴール。一方、トップに立ったトレルイエは、その後2番手以降との差を広げて行き、最後はマシンを労わりながらのトップチェッカー。2007年開幕戦以来、2年ぶりの優勝で、喜びを爆発させた。

Formula NIPPON NEWS 2009.04.05
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第1戦・決勝 [富士スピードウェイ]

決勝トップ3 ドライバーのコメント

優勝 No.2 ブノワ・トレルイエ (LAWSON TEAM IMPUL)

優勝できて、とてもハッピーだよ。“気持ちいいね!” 去年は、とても難しい1年だったし、正直言って今日は表彰台で泣きそうになった。ドライバーというのは、誰でもそうだけど常に誰よりも速く走りたいものだし、遅いというのは一番ツライ状況。去年はそういう意味で、とても難しかったしツラかった。最後まで原因も分からなかったしね。セットアップなのか、クルマ自体に問題があるのか、それとも自分の年齢的なものかとか、自分にはまだモチベーションがあるのかとか、色々なことを考えたよ。でも、今日ハッキリ分かった。僕にはまだモチベーションがあるし、自分のドライビングスタイルがあって、まだチャンピオン争いをできるってね。それから、今日はエンジニアにお礼を言いたい。今回が彼にとってはデビューレースだったけど勝つことができたから、きっと彼は強いエンジニアだと思う。彼と僕のメカニック全員に感謝している。早く2勝目を挙げたいよね。

決勝2位 No.41 伊沢拓也 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)

まず、すごくいいスタートが切れました。昨日からクラッチの調子が今ひとつで「上手くスタートできないんじゃないか」と思っていました。でも、何だか分からないですけど、すごくいいスタートが切れましたね。トップに立てたら、何とかがんばってギャップを開いて行こうと思っていたけど、ピットアウトしたあとの数周でブノワ選手に抜かれてしまって。その後も、ブノワ選手が速くて、なかなか追いついていけませんでしたね。その辺はまだまだ勉強しなければならぬと思いました。富士で表彰台に上るのは初めてなので、非常に嬉しいんですけど、今日は勝てたレースだと思うので、チームには申し訳ないと思っています。

決勝3位 No.20 平手晃平 (ahead TEAM IMPUL)

今日はスタートがすごく悪くて、それですべてダメにしたような感じです。ポールスタートだったので、いい形でレースを終えたかっただんですけど、決勝前の8分間のウォームアップの時に「もう少しタイヤを持たせよう」と考えてセットアップしたのが悪い方向に行ってしまう。ラップタイムはコンスタントだったんですけど、タイヤが新しい時にタイムに今ひとつ伸びがなかった。そこで離されて、また追いついてという感じの苦しいレースになりました。ピットアウトした後はトップだったんですけど、アウトラップは経験があるブノワ選手には全然劣るので、僕ももう少し勉強して、タイヤを早く温められるようになっていけば、結果ももう少し良かったんじゃないかと思います。

優勝チーム監督 星野一義 (LAWSON TEAM IMPUL)

スタートでは平手選手も、松田選手も上がってくるだろうと思っていました。そんな誰が優勝するか分からないような前半のレースの中で、何とかうちの誰かが勝ってくれればと思っていました。ブノワも去年優勝していないですし、勝たせてあげたい。平手もポールだから、勝たせてあげたい。松田も、昨日ブレーキのことで迷惑をかけたので、今日は何とか勝たせてあげたい。スタートで上手く行ったから、何とかなるんじゃないかって。そんな風に、みんなチャンスがある中、ブノワ選手が着実にペースを守りながら、優勝をつかんだということで、毎回毎回ホッとしているような状況です。3台いるスタッフはみんな、自分のドライバーを勝たせたいわけですよ。そういう風にチーム内でレースしているので、ウチは激しいと思う。でも、このスタイルは変えずに行きたいですね。

Formula NIPPON NEWS 2009.04.05
 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
 第1戦・決勝 [富士スピードウェイ]

第1戦富士・決勝結果

■富士スピードウェイ 4.563km × 55Laps= 250.965km

■開始/終了時間: 14:33~15:55 | 天候: 曇り | コース: ドライ | 気温/路面温度: 15°C/25°C

Po	No	Name	Team	Laps	Time	Gap
1	2	ブノワ・トレルイエ	LAWSON IMPUL	55	1:21'59.897	
2	41	伊沢 拓也	DOCOMO DANDELION	55	1:22'05.877	5.980
3	20	平手 晃平	ahead IMPUL	55	1:22'06.625	6.728
4	31	ロイック・デュバル	NAKAJIMA RACING	55	1:22'07.800	7.903
5	48	立川 祐路	CERUMO/INGING	55	1:22'21.171	21.274
6	10	塚越 広大	HFDP RACING	55	1:22'27.136	27.239
7	37	大嶋 和也	PETRONAS TOM'S	55	1:22'28.006	28.109
8	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	55	1:22'29.604	29.707
9	7	国本 京佑	Team LeMans	55	1:22'42.184	42.287
10	36	アンドレ・ロッター	PETRONAS TOM'S	55	1:23'01.877	1'01.980
11	8	石浦 宏明	Team LeMans	54	1:22'16.779	1Lap
* * * * 以上完走(規定周回数 49Laps) * * * *						
	40	リチャード・ライアン	DOCOMO DANDELION	40	1:00'02.053	15Laps
	1	松田 次生	LAWSON IMPUL	16	23'37.970	39Laps

©Fastest Lap: No.36 アンドレ・ロッター (PETRONAS TOM'S) 1'27.011(188.790km/h) / 30Lap

【この件に関するお問い合わせ】
 株式会社日本レースプロモーション
 広報担当 石原
 media@f-nippon.co.jp